

「奈良大学情報処理センター年報」第20号発刊に寄せて

奈良大学長 石原 潤

本年（2009年）度、奈良大学は創立40周年を迎えましたが、40年前の創立時の大学キャンパスは近鉄西大寺駅の西南方の宝来の地にあり、文学部の単科大学であった当時は、情報処理センターは設けられておりませんでした。情報処理センターが開設されたのは、キャンパスが現在の山陵地区に移転し、社会学部や教養部がスタートした1988年のことであります。以後現在までの21年間、同センターは、奈良大学の情報処理教育・研究の拠点として、多面的な活動を展開して来ました。

「奈良大学情報処理センター年報」は、同センターの1年間の活動を記録するとともに、センター関係者が執筆する情報処理分野の研究論文を収録し、この度めでたく第20回の記念号を刊行することになりました。ここに第20号刊行をお祝いするとともに、開設以来同センターの発展に寄与された教職員の皆様に、心より御礼申し上げます。次第です。

情報処理センターはまず、奈良大学の全ての学生に情報処理教育を行う、まさしくセンターの役割を果たして来ました。本学では全ての学生が情報処理の基本リテラシーを身に付けるべく、全学共通科目で情報処理の一定単位を必修にしておりますので、多数の端末を備えた同センターの教室は、欠くことのできない存在です。情報処理センターはまた、社会学部の統計処理教育、文学部地理学科のGIS教育や、各学科の演習や実習における情報処理教育など、専門教育の場においても、重要な役割をはたして来ました。

さらに情報処理センターは、本学教職員の情報処理能力の向上にも、大いに貢献して来たといえます。開設以来毎年のように、各種講習会が教職員のためにも開かれ、事務系職員の情報処理スキルを高めるとともに、自然科学・人文社会科学を問わず、各学部教員の研究活動の支えにもなって来ました。

加えて情報処理センターは、地域貢献・社会貢献についても、意を用いて来ました。阪神・淡路大震災の災害復興の過程で、本学情報処理センターのコンピュータが大活躍したことは、今でも語り草になっております。また、毎年開かれる「パソコン入門」・「エクセル入門」などの公開講座も、地域貢献を意図したものであることは言うまでもありません。

以上のように情報処理センターは、本学にあって従来も極めて多面的な役割をはたして来たといえましょう。しかしながら今後のその発展方向を展望しますと、インターネットや電子メールなど、ネットワーク分野での役割がますます重要になると考えられます。また、eラーニングの促進やホームページの維持管理なども、主要な任務となるかも知れません。関係者の益々のご尽力を、切にお願いするところであります。